

論壇

矯正手段としてのスマホ

情報化の進展により、人々に求められるスキルや教育のあり方について以前取り上げたが、今回はこの点についてさらに深めてみたい。

私たちが日々利用しているスマートフォンは、少し前のスーパーコンピュータに匹敵する能力を持っている。機器そのものがコンピュータというより、通信でどこか遠くのコンピュータとつながっており、その能力をフル活用することができる。これをクラウド

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

ドコンピュータインクという。クラウド(雲)の中にあるようなコンピュータにつながっていることで、スマホのような小さな機器で大型コンピュータをフル活用できるようになる。

私もスマホをフル活用している。スケジュール管理やメールは

現代に求められる能力とは

当然、出版社からきた原稿のチェック、インターネットを通じた情報収集、道路の渋滞情報や電車の乗り換え情報、歩数管理、音楽や映像の視聴など、小さな機器がすべてこなしてくれる。考えてみれば、スマホは私たちが個人利用している人工知能とも言える。

こうした時代にあつて、人々に求められる能力とは何かが問われることになる。たとえば、学校での試験を想像してみてもいい。試験の最中に眼鏡の使用が許される。近視の人が眼鏡に視力矯正を頼るのは当然のことだ。入試のときに眼鏡の利用を禁止することはあるように思える。

人のあり方教育のあり方

では、なぜ入試のときにスマホを利用するのは禁止されるのだろうか。スマホを使えばいろいろな情報が手に入るの、ズルが横行すると考えられているようだ。しかし、眼鏡が視力矯正の手段であるように、スマホは能力矯正の手

段と見ることもできる。

現実の世界では、スマホを利用して仕事や生活が営まれている。それによって多くの人は能力を倍増させている。スマホを使わない能力を問題にしても仕方ない。それなら、試験でもスマホのような機器の利用を認めることにも一理あるように思える。

もちろん、スマホに頼りすぎることは、人の能力を減退させるかもしれない。だからスマホに頼らないでいろいろなことができるような訓練は必要だろう。ちよつと自動車を使わないで自力で走ることで運動能力を高めることに意味があるのと同じだ。ただ、それは

走る能力が弱い人が能力的に劣っているということではない。自動車でも車椅子でも、使える機器をフル活用しての能力であつて、機器が人間の能力を補うことは当然のことであるのだ。

機械や情報システムができることはそれに任せて、人間は何をやるべきか、そのあり方が問われる時代になってきた。これは教育のあり方も深くかかわってくる。

旧来の教育方法を安易に変更することが好ましいとも思われないが、そうかといつてこれまでのやり方を頑なに守ろうとするのが正しいとも思われない。技術革新は社会のあらゆる所に変革を起こしているが、教育のあり方もその例外ではないのだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。